



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第74号



向坂山山頂2020.11.3

年頭のご挨拶

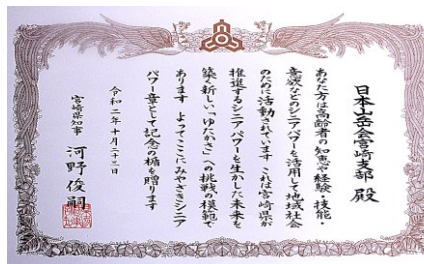
支部長・荒武八起

新年明けましておめでとうございます。旧年中は支部活動にご協力を賜り誠に有難うございました。本年もなお一層のご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。

昨年は全世界がコロナに翻弄された歴史に残る一年でした。我が宮崎支部の活動に限って見ても定例山行・定例登山研究会をはじめとした様々なイベント、特に万全の体制で取り組んでおりました全国支部懇談会も中止を余儀なくされました。このコロナの勢いは年が明けても弱まる気配はなく、本年度がどのような年になるか未だ見通しがつきません。ワクチンが開発され、一部の国では接種が開始されましたが、世界中に効果が出るまでには時間がかかりそうです。この状況の中で我々にできる事は、感染を最大限に回避しつつ支部活動を粛々と進めることだと思います。

昨年の出来事として、支部活動を一心に支えて下さいました都甲事務局長が他界されたことは誠に悲しいことで、それ以降の活動を遂行する中で氏が如何に支部活動にご尽力されていたか思いを深くしているところです。

一方では3月に石井先生が永年にわたる自然保護活動のご功績により「MRT環境大賞」を受賞されるという朗報がありました(支部報72号参照)。また、10月には県知事より「宮崎シニアパワー賞」を拝受しました。本賞の趣旨は高齢者の知恵・経験・技能・意欲などのシニアパワーを活用して地域社会に貢献したというものです。具体的には「ときめき家族登山」・「家庭裁判所からの補導委託登山」などを介した子供の健全育成、高千穂町共催の「宮崎ウエスタン祭」、「諸塚山山開き」の後援、宮崎市山岳協会と合同で行っている双石山の山開き・山の日イベント



ト・森づくりのための植樹・登山口周辺の一斉清掃など地域に密着した活動が評価されたものと思います。この受賞は宮崎県スポーツ振興課のご尽力によるものですが、推薦していただく段階では若い会員もいる支部にとってシニアパワー賞が相応しいかという戸惑いもありました。しかし、高齢にも関わらず健康で山を楽しみ、諸活動に参加していることをアピールするという意味から有り難くお受けした次第です。

人は何故山に登るのでしょうか。イギリスの登山家ジョージ・マロリーは、何故エベレストに登るのかとの度重なる質問に対して「Because it there」と答えたエピソードは有名です。また、串田孫一は「山の断想」の書き出しに「この自ら悦んで求める忍苦の行為を人が棄てないうちは、私は人間の尊い願いを疑わないだろう」と述べています。より高みを・より難しいルートをとる確かに人は他の動物には無い高尚な遺伝子を持っているようです。今年はこのような言葉をかみしめながら山を楽しみたいと思います。本年も安全で楽しい山行を宜しくお願い申し上げます。

けふもまたこころの鉦(かね)をうち鳴らうち鳴らいつつ
あくがれて行く(牧水)

[10月定例山行1]

岬巡り:馬ヶ背、日向サンパーク

10月4日(日)

平田 五男(15749)

9時にグリーンパークに到着し岬トレッキングが始まる。今朝は風が無く少し日差しが眩しく暑い。昨日の下見コースを辿る。某自動車会社のCMで有名になった大曲がりのヘアピンロードを登りきるとクルスの海に到着。恋人たちの願いが叶うと云われる。鐘を鳴らすと恋が実り結婚出来ると言われる日向岬巡りのスタート地点。太平洋を右手に見ながら坂を下って行くと、太公望たちがあちこちに竿を出しているのが遠くの岩場に見える。馬ヶ背の茶屋に到着、遊歩道を歩くと馬ヶ背の絶景コースに。数分で標高差70mの柱状節理の景勝地！断崖絶壁が見えてきた。汐風が微かに感じられる岬の先まで足を運び、久し振りに180度見渡せる太平洋を眺めることが出来た。標高100mの細島灯台に上がり、再び太平洋の広さを感じ取った。馬ヶ背茶屋では疲れた顔にソフトクリームが似合った。

坂道を下って日本伝承大鑑史跡指定の黒田の家臣が祀られた公園に到着。日本の現代の基礎作りに紛争した各藩の過激派藩士、京都伏見の寺田屋事件で捕えられた藩士の墓が祀られている。残念ながら満潮で小島には渡れなかった。近くの御鉢ヶ浦公園で昼食を摂り、次の景勝地サンパークに向かった。13時10分サンパーク駐車場到着。2.1kmの岬トレッキングが始まる。段差のある入り組んだ岩場にフットワークを強いられながら歩く。下見で見かけた浜ナデシコが咲く処まで汗かきしながら歩く。強い日差しが岩を熱くして無風の海岸を歩くのはつらかったが、木陰に入ると涼しかった。



〈参加者20名〉 清水弘子・清家順子・谷口敏子・多田登美子・栗林淳子・橋口三枝子・中武照子・玉置節子・前原満之・荒武八起・日高研二・乾正太郎・武田芳雄・多田周廣・橋口邦彦・畑島良一・橋口光博・平田五男・川越政則・栗林忠信

[10月定例山行2]

樹鉢(くんぱち)山 (500.4m) 10月24日(土)

四宮林三(15079)

神話が語る山幸彦御陵の山

7時半、ナフコ清武店に集合。参加者5名。車を登山口迄走らせて、古びた鳥居の近くの登山口から登山開始。急な上り坂に高く伸びた杉林、地面にはシダが生え、多くの石には苔が纏わりついている。両手両足を使って登る。二股の大木の間の所々から柔かい陽射しが差し込む。山頂近くに近づくと冷たい風が吹き抜ける。それぞれが家庭菜園の話をしながら高度を稼ぐ。かねどう小屋跡、樹八神社の脇を通過すると山頂に到着。

山頂からの眺めは素晴らしく、日南海岸が一望できる。天候に恵まれ海面がキラキラ光って見える。記念写真を撮り、下山開始。弁当は少し下った所にある樹八神社でとる。神社には20畳程の板の間があり、鍵も掛かっておらず「この部屋をご自由にお使いください」と書かれている。その言葉に甘えさせてもらって弁当を広げた。綺麗に掃除も行き届いており、感謝の気持ちと共に心も暖かくなった。何処の山に登っても登山者の多い少ないはあるが、登山中に1人も出会わなかったのは初めてだった。それだけ厳しい山なのだろうか。我々も汗びっしょりの中で時には寒さも感じた程の厳しい山だった。



〈参加者5名〉 栗林淳子・服部岩男・武田芳雄・畑島良一・四宮林三

〈コースタイム〉 ナフコ清武店出発7:40～樹鉢山登山口8:05(8:15)～樹八神社9:55～山頂10:20～樹八神社10:55(昼食11:40)～樹鉢山登山口13:10(13:30)～ナフコ清武店着13:55



〈コースタイム〉 ヤマダ電機駐車場発7:00～日向グリーンパーク駐車場8:45(9:00)～馬ヶ背茶屋9:50(10:00)～黒田の家臣11:15～御鉢ヶ浦海水浴場駐車場11:40(昼食12:40)～お船出の湯駐車場13:10(13:15)～鹿鳴神社13:30～お船出の湯駐車場14:25(14:50)～ヤマダ電機駐車場着16:30

[11月定例山行1]向坂山(1,684m)・白岩山(1,620m) 11月2-3日(月-火)

今年は、ウエストン祭がコロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となったため、向坂山・白岩山への山行となり、前泊班と日帰り班とに分かれて行くこととなった。私は前泊班で参加した。

一日目(2日)は、朝からあいにくの雨模様。3台の車に分乗して高千穂町へと向かった。まずウエストン祭を所掌されている役場職員の方へのお礼と挨拶のため高千穂町役場へ立ち寄った。昼食は近くの蕎麦屋さんで。(高千穂牛のステーキ?を食べたかったが、あいにく初栄が休みだったため断念)。

その後、玄武山登山口でこの山で亡くなられた川越様の慰霊と登山の安全を参加者で祈った。河内からちょっと熊本県を通過して五ヶ瀬町へ向かう。沿道の木々は、雨にも関わらずきれいな黄葉が見られ歓声をあげた。五ヶ瀬に来ると山全体が紅葉している。否が応でも明日の登山に期待が増していった。やまめの里では、窓越しに紅葉の山々が見渡せ感激!お膳にはたくさんの季節の品々が並べられ、おいしくいただいた。宿泊料はGoToトラベルの割引と、町からの割引があり、お得感いっぱいだった。

二日目(3日)は、朝から快晴で日帰り班のメンバーが到着する前に、それぞれ宿の付近を散策。日帰り班と合流して登山口のごぼう畑へと向かう。車窓には錦秋の風景が流れてゆく。一番きれいな時期だと思った。このような時に来れて幸せだと思う。ごぼう畑に到着するとすでに多くの車が駐車していたため、少し林道を上がった場所に駐車することにした。そこから林道を歩いてスキー場へと向かう。スキー場のあたりに来ると冷たい風が強く吹いていた。昨日の雨で空気中のごみが洗い流されて遠くまできれいに見渡せ、美しい風景を堪能できた。このあたりでは紅葉はすっかり終わっていて、葉を落とした木々がいつそう寒さを感じさせた。スキー場から向坂山までゆっくりと登ってゆく。ちょっときつい傾斜だ。向坂山山頂で全員集合の記念撮影を済ませて、杉越へ向かう。

<コースタイム>

11月2日(月)雨 宮崎市発9:40～よっちみろや11:15～高千穂町役場12:00～12:25(天庵そばで昼食13:25)～玄武山登山口14:00～やまめの里15:20(泊)

11月3日(火)晴れ やまめの里9:35～ごぼう畑10:00(10:15)～スキー場10:55(11:05)～向坂山11:30(11:40)～杉越12:10(12:40)～白岩山13:00～杉越13:35～ごぼう畑14:05(14:20)～よっちみろや16:00(16:20)～宮崎市17:45

拵 恵子(12534)

杉越で昼食をすませて次の目的地、白岩山へ。紅葉は終わったとはいっても林の中を落ち葉を踏みしめながら歩くのは気持ちがいい。霧立山桜は来年はどんな花を咲かせてくれるのだろうかなどと考えながら歩く。30分ほど歩いて白岩山に到着。狭い岩峰で記念撮影。ふと周りを見るとイワギクの花が岩の上で風に揺れている。一輪でも花を残していてくれて何となくいとおしい気持ちになり、その姿をカメラに収めた。

下山の杉越からごぼう畑までは、きれいな紅葉があり、皆歓声をあげながら写真を撮をたくさん撮っていた。落ち葉もまだ色がきれいだった。最後にご褒美をもらった気分だ。帰りは、「よっちみろや」で集合・解散となった。



白岩山山頂



霧立越を行く

<参加者19名> 前泊組: 拵恵子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・荒武八起・谷口菊美・多田周廣・服部岩男・四宮林三・川越政則 日帰り組: 蔵屋とよ・高橋節代・中武照子・小山利衣子・日高研二・武田芳雄・畑島良一・深田光生

[11月定例山行2]

尾鈴山 矢研の滝等散策 11月21日(土)

白賀 智子

8時集合であったが全員揃ったので予定より早く出発した。キャンプ場に着き9時45分に歩き出す。🚶のマークに、子鹿二頭分のソーシャルディスタンスを！とあった。それって2メートルなのかな・・・面白い。初っ端からの急な階段に「わ！無理かも」と言うと先輩が「ここだけよ」と教え下さり安心した。雲一つ無い青空、木々や葉、小さな花、木の実や根っこを見ながらゆっくり歩く。苔の緑がとっても綺麗であった。

「若葉の滝」では、大雨だと通れなくなりそうな石を渡って行く。道幅も狭くなってきた。10時25分「矢研の滝」に到着。静けさの中に73メートル上から落ちる飛沫と音は「日本の滝100選」に選定されているだけあって圧巻。あ～心が洗われる。周辺の散策は通行止めで、出来ないらしく残念ながらUターンして戻ること。11時15分駐車場近くの学校跡地で昼食。光が当たって綺麗な紅葉の隣に1センチ位の「マメカキ」と言う実が沢山あって、恐る恐る試食してみたら干し柿味、悪くない。時間があると言うことでトロッコ列車が通っていた跡のトンネルを見に行く。トンネルは緩くカーブしていて岩肌が荒々しく硬い印象であった。

帰路の途中、都農ワイナリーに寄る。珈琲を頂きながら眼下の海を見ると自衛隊の訓練船が二艘、空も海も青くて気持ち良い。皆には物足りない散策と思ったが、私には丁度良かった。アミュプラザの屋上で交通安全祈願して頂いたお陰だろうか。15時55分無事にヤマダ電機駐車場に着いた。気持ち良く、楽しい一日をありがとうございました

＜参加者10名＞ 多田登美子・栗林淳子・蔵屋とよ・白賀智子・日高研二・武田芳雄・多田周廣・畑島良一・四宮林三・川越政則

＜コースタイム＞ ヤマダ電機駐車場発8:00～キャンプ場9:45～若葉の滝10:15～矢研の滝10:25～学校跡地11:15(昼食12:10)～旧トロッコ道・トンネル見学～都農ワイナリー12:45～ヤマダ電機駐車場着15:55



[宮崎家庭裁判所補導委託登山]

11月18日(水)

橋口三枝子(14885)

日本山岳会宮崎支部は短期補導の一環として平成14年から双石山登山を行っており、今回で27回目となる。今回はコロナ禍で中止も考えられたが規模を縮小して行くことになった。今までは山岳会会員が裁判所まで少年達を迎えに行ったが、今回は裁判所調査官2名、少年1名とその保護者代理の施設職員1名)、宮崎支部会員4名が小谷登山口に集合した。

登山口で、まず検温、消毒を行い支部長の挨拶、注意事項等の説明があり、準備体操をして登山開始(10:20)。早朝に雨が降っていて滑りやすくなっている所以十分注意するように伝える。磐窟神社経由で登って行くと天狗岩の奇岩が現れ、みな圧倒される。タフオニと言われるのだが特殊な風化によってできたもので全国的にも珍しいものだと言明をする。そこからは岩場の登りとなるので3点確保の登りを説明。ちなみに今回の参加者は1人を除き登山の経験はないということだ。空池では畑島さんが大きいヒキガエルをつかまえ、皆をびっくりさせる。空池を過ぎると梯子やロープ、岩場が続くので気が抜けない。慎重に1人ずつロープを登る。そんな中、少年は「おばあちゃんとキノコ採りに行っていた。岩場は楽しい」などと話してくれた。上りも終盤にさしかかる頃、近くに蜂の大群。幸い登山道から少し離れているが、刺激を与えないように注意して無事通過。

最後のロープ登ると今回の目的地、第二展望台。太平洋、市街地を眺めながら昼食を済ませ下山開始(12:15)。登山では下山中の事故が多いので充分注意してほしいと話かける。谷コースを下りるがこちらも気が抜けない。まして初めての方には大変だろう。少年の足元は運動靴、急坂は危険で滑りやすい。何度も「あわてないでゆっくりね」と声をかける。途中雨が降り出したが、幸い林の中で木々が雨をさえぎってくれた。短時間で止んだので雨具を付けずに済んだ。ときおり滑りそうになる少年にヒヤリとするが、「下りも楽しい」と笑顔で話してくれる。

コースの後半に「バクチノキ」の大樹がある。その不思議な名前について、「何故そう言うのか分かる?」と質問してみた。答えがなかったので、ミニ知識で知った、木の皮が鱗状に剥がされ赤褐色になるのでそれが身ぐるみ剥がされた博徒に例えられることから付いた名前だと説明した。「何んとも木にとっては可哀想な気がしますね」と笑いを誘う。楽しい会話をしながらあっという間に無事下山した(13:05)。

今回はコロナ禍で展望台までの登山であったが、参加された方々からの感想は「十分満足で達成感でいっぱいです」、「膝が笑っています。明日が心配です」、「標高は低い山だがこれほど大変だとは思わなかった」。そして少年からは「今度は山頂まで行きたいです」と力強い言葉を聞くことができた。短時間でのふれあいの中でどれほど貢献できたか分からないが、この登山の経験が役立てば我々会員も望外の喜びである。今回は登山道が濡れており滑りやすかったので心配したが、無事に楽しく終えることができた。

＜参加者8名 支部会員4名＞ 橋口三枝子・荒武 八起・畑島 良一・川越 政則

〔日向岬めぐり の一見〕 「黒田の家臣」の墓

多田 周廣(13780)

10月4日、秋晴れの中、会員他20名で日向岬の磯めぐりを地元会員平田さんの案内で行った。その中に幕末動乱期、京都から遠く離れた、何事も時代の影響はないと思われる日向のこの地に起こった悲しみの場所がある。日向市細島「黒田の家臣の墓」である。以下折角の機会であるので、その事件を「みやざきの謎」「みやざき歴史の道を行く」等の書籍を借りて書いてみた。

1862(文久2)年4月、勤皇志士は倒幕挙兵の準備で京都伏見の宿(寺田屋)に集まっていた。上京していた島津久光は、公家の要請もあり、過激派鎮撫のため薩摩藩士を寺田屋に向かわせた。

久光の気持ちは、あくまで談合の解散が目的であったが、脱藩の薩摩藩士の意志は強く同郷同士の斬り合いとなり、脱藩していた薩摩藩士8名はその場で惨殺、このほか各地の藩を脱藩して集まった勤皇志士たち多数が捕えられ、それぞれの藩地へ護送されることになった。

引き取り手のなかった志士に対しては、二艘の船が出され一艘には藩名は分からないが田中河内介とその子左馬介が乗せられ、瀬戸内海の小豆島で親子共々惨殺死体として発見。いま一艘には秋月黒田の海賀直球、肥前の中村主計、但馬の千葉郁太郎の三人が乗せられ、瀬戸内海を經由して細島に護送、この細島港入口の御銚ヶ浦近くの高島で、密かに殺された。島津久光の意も有っての行為だったのだろう。

文久2年5月4日の朝、地元黒木庄八さんが端午の節句に飾る椿の葉を採っている時に死体を発見し、富高代官所へ連絡した。そこで「死体検分書」が作成された。その内容によると、一人は27、8歳ぐらい木綿の綿入れを着て小倉帯をしめ、右手は麻縄でしばられ、

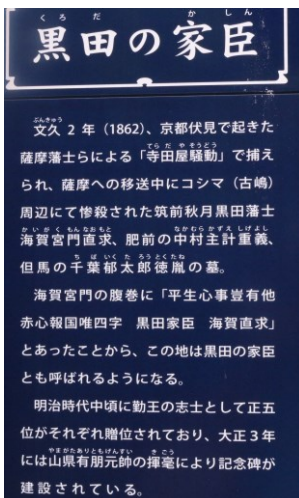
素足。背中、左腹など八ヶ所の深傷。もう一人は年齢28、9歳ぐらいで木綿のじゅばんに絹の単物を着ていたがズタズタに斬られ、左足に紺足袋を履き、右手をしばられていた。さらにもう一人は年齢33、4歳ぐらい。白木綿のじゅばんと、浅黄木綿に丸に三つ茶紋付き綿入れを着、これもズタズタにされ、胸、腹、背中、首筋など八ヶ所の傷を負い、その腹巻から黒田家臣、海賀直球(なおもと)であることが判明した。

庄八さんは志士たちの死をあわれみ、5月4日を三志士の命日と決め、年1回の祥月命日として供養塔を建て供養している。

1914(大正3)年には寺田屋騒動の同士、山県有明筆による志士顕彰碑が同地に建立され、さらに1934(昭和9)年に県指定史跡として「黒田の家臣の墓」が選ばれて1966(昭和41)年秋顕彰碑と「黒木庄八翁之碑」が志士に並んで建てられ黒木家の子孫4代が今も墓を守っている。その墓のある小島は周囲100メートルに満たない小さな地続きの島であるが、満潮の時には渡れない。我々の訪問した時は残念ながら渡れなかった。島の近くは夏は海水浴場となる等、風光明媚な日向市民の憩いの場所である。つい158年前の事件である。



墓がある小島



現地にある案内板



馬ヶ背茶屋付近にある歌碑

[笹の峠]

永峯 麗子(12552)

「明治になって間もなく開始された日本地図作製のために三角測量の標石・1等3角点に特に愛着をもち日本の山々を登り続けたのは、今西錦司氏(京大名誉教授・社会人類学者・霊長類学の泰斗)であり生涯登山家であった」と元・日本山岳会会長・齋藤惇生先生は登山案内『1等3角点全国ガイド』に書いておられる。その今西錦司先生を笹の峠に案内したのは大谷優さん夫妻である。今に聞くその折のエピソードは興味深い。

全国に1等3角点は975座あり、そのうちわが宮崎には14座あり笹の峠は1/14に当たる。令和元年10月5日(土)、都甲さんと2人「1等の会」の為3回目となる笹の峠の下見に行った。旧来の第1登山口・標高840m(1時間30分)、新しい第2登山口・標高1250m(約15分)。その日、都甲さんと私は第2登山口より頂上を往復した。登山口でおにぎり食べながら「永峯さん僕は首すじにごろごろがあるから7日(月)県病院に行くことにしている」と言われた。私はえっと

思ったが「虫歯でもごろごろできますよね」なんて言って深刻な事と思えなかった。月曜日に「永峯さん白血病でした。即入院です」と電話があり、その後入退院をくり返しつつ令和2年4月4日、帰らぬ人となった。私の大切な山仲間であった。笹の峠からの帰り、松尾小学校の門の前の崖に秋海棠の花がとても美しく、2人で車から降りて見た。

文化9年(1812)年6月、伊能隊の別隊坂部貞兵衛たちは美々津より入り坪谷、神門を経て笹の峠を越え下松尾の庄屋・松岡家を止宿とした。更に十根川をさかのぼり鞍岡から阿蘇、英彦山を越え小倉までの測量日記は幕府の命令により日本地図をつくらなければならなかったもので詳細細密である。民俗学者・柳田国男も笹の峠を越えて来て椎葉に泊まり『後(のち)狩(かり)詞記(ことばのき)』を書いている。笹の峠は今に人馬の息衝きの聞こえる山である。

45-05.

点名 笹ノ峠

山名 笹の峠

標高 1340.12m

基準点コード TR14831524101

選点 明治25年(1892) 地上埋設

1/5万図名 神門

北緯 32° 27' 06".6879

東経 131° 16' 08".6146

所在地 東臼杵郡椎葉村大字松尾字湾*

三角点道 日豊本線日向市駅から国道327号線を走り、松尾の案内板で林道に入り登山口に駐車。道標に従って灌木林のゆるやかな尾根を登り、途中で林道を横断しアルミ階段を登り三角点山頂に出る。



椎葉村観光協会・高島氏撮影

笹の峠

永峯 麗子

わが書きし笹の峠の概念図アナログと言いつつ娘は見てもりぬ

ここは標高七〇〇メートル椎葉山の人清し代掻き終り

けふ目指す一等三角点笹の峠伊能隊も越えぬ馬七足ひきて

笹の峠越えて来たりて民俗学者柳田国男は後狩詞記書きぬ

選点明治二十五年笹の峠の標石の隷書八分体文字の美し

登り来し一二五〇メートルに息づけばヤマウラギンヒョウモンのわれに纏わる

伊能隊の止宿したりし庄屋跡ひそやかに咲くきつねのかみそり

笹の峠下り来たりてわがいらふ中生代四万十層の石片ひとつ

〔自然保護委員会〕「森づくり活動」 双石山小谷登山口補植作業 10月31日(土)

多くの樹種を植える

前原満之(9878)

今回は、3月21日宮崎市山岳協会として小谷登山口の杉の伐採跡地に植樹した広葉樹の補植作業である。我々も加盟団体として参加した。植栽した木はクヌギ、ケヤキ等の落葉広葉樹。マテバシイ、イスノキ、ヤブツバキ等の常緑広葉樹。ウメ、ヤマアジサイ等15種600本。植樹前には3回、荒武支部長、川越会員が主となり、目印竹切り等の準備作業(下記)を経ての植樹行事であった。補植作業を終え、午後には10名で植栽状況の点検を行ったが、持ち上げると抜けるようなものも散見され、手直しを行った。



準備作業

10/16(金)竹切り、600本 25名(当支部12名)
10/24(土)境界及び植栽域確認 8名(当支部2名)
10/25(日)(目印竹立て) 27名(当支部10名)

準備作業においては、川越会員からおにぎりの提供、谷口会員、橋口会員等女性会員によるぜんざい等がふるまわれた。ありがたい！



補植作業

10/31(土)52名〈当支部16名〉

拵恵子・清水弘子・清家順子・谷口敏子・多田登美子・服部澄子・栗林淳子・橋口三枝子・前原満之・荒武八起・日高研二・武田芳雄・多田周廣・服部岩男・四宮林三・川越政則

〔定例山行・清掃登山〕

小谷登山口清掃作業・双石山登山 12月12日(土)

前原満之(9878)

今年の清掃は、宮崎市山岳協会及び一般の方にも呼びかけて実施。場所は小谷登山口の先、監視カメラ設置警告のある駐車スペース下の山林内である。事前に調査し、当初2ヶ所を予定していたが、あまりのゴミの多さに1ヶ所に集中して行った。市から事前に支給を受けていたボランティア袋30袋では追い付かず、結局ボランティア袋49、その他

の袋(大中小)57の計106袋、更にタイヤ11本等を回収し、大量のゴミが散乱していた林内は見違えるようにきれいになった。現場に置いたゴミ袋は後日環境業務課にて回収した。

清掃作業後の登山は、清掃作業が2時間10分に及んだこともあり、11名(*印)で第2展望台までに縮小し実施した(晩餐会は中止)。



<参加者40名(当支部17名)>

清水弘子*・清家順子*・谷口敏子・多田登美子・服部澄子*・栗林淳子*・橋口三枝子*・前原満之*・荒武八起*・日高研二*・武田芳雄・多田周廣・服部岩男*・畑島良一・橋口光博・四宮林三*・川越政則*

[事務局だより]

支部行事予定(1月～3月)

月 日	行事名・他	開催地	備 考
1月7日(木)	第259回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	
1月10日(日)	定例山行 釈迦ヶ岳830.6m	国富町	釈迦ヶ岳登山口9時集合
1月16日(土)	薩摩街道踏査	高城町～高岡町	大淀川ゴルフ場駐車場7時半集合
2月4日(木)	第260回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	
2月7日(日)	定例山行 荒平山603m・丸目岳614m	清武町	清武ナフコ駐車場9時集合
2月20日(土)	定例山行 仰鳥帽子岳1301m	熊本県	清武ナフコ駐車場6時集合
3月4日(木)	第261回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	
3月6日(土)～28日(日)	諸塚山山開き関連行事		
3月14日(日)	双石山山開き		

支部会務報告(10月～12月)

月 日	事業・行事	開催場所	人員	備 考
10月4日(日)	10月定例山行 1	日向岬めぐり	20	
10月24日(土)	10月定例山行 2	くんばち山	5	
10月31日(土)	市山協合同植樹	双石山・小谷登山口	16	総勢52名
11月2-3日(月、火)	11月定例山行 1	白岩山・向坂山	19	
11月6日(金)	第257回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	20	11月5日開催のところ会場の都合で変更
11月6日(金)	定例役員会	宮崎市中央公民館	10	
11月18日(水)	家庭裁判所委託補導登山	双石山	4	総勢8名
11月21日(土)	11月定例山行 2	尾鈴山	10	
12月3日(木)	第258回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	18	
12月3日(木)	定例役員会	宮崎市中央公民館	10	
12月12日(土)	宮崎山岳協会合同清掃	小谷登山口付近	17	総勢52名
12月12日(土)	12月定例山行	双石山	11	

小谷登山道森づくりに参加しませんか

10月31日に宮崎市の双石山小谷登山道に双石山愛好者合同で山桜、梅、ヤマアジサイ、ヤマボウシ、イチイガシ、コナラ、ヤマガキ等々15種類、約600本の苗木を植樹しました。これらの木々が育って季節ごとに楽しめる森を目指していますが、その為には下草刈りなどの作業および管理費が必要となります。そこで、同日に植樹に参加された方々には木札1枚につき200円を募金していただき記念植樹の意味を含めて名前などを思い思いに書いて添竹に下げていただきました。この森づくりに賛同される方は、山小屋に置いています木札にご記入いただき、お気に入りの苗木の添竹に下げて生育を見守っていただければ幸いです。募金(木札1枚あたり200円)は森づくりの管理費や山小屋の保守整備などに利用させていただきます(服部澄子)。

編集委員会からのお願い

支部報は年に4回発行しておりますが、原稿の集まりが順調でなく苦慮しています。定例山行や支部行事に関する原稿は編集委員会から会員の皆様に直接執筆をお願いしておりますが、グループ山行については十分に把握できていないのが現状です。山行に関するものはもとより、随筆・詩・短歌・俳句など何でも結構ですので皆様の積極的な投稿を何卒よろしくお願い致します。また支部報に関するご意見などありましたら編集委員会へ忌憚なくお寄せください。

編集後記

令和二年は世界中を襲った新型コロナウイルスの行動制限に陥りましたが、そんな中でも辛うじて山行が出来たことは幸いでした。そして私たちの最も親しんでいる心の山、双石山の登山道整備・植林とわが宮崎支部史に残る大きな仕事を市山協と協力して成し得ることが出来ました。数十年後にあとに続く人々が登山道の桜の中を登る姿を夢見ながら。令和三年コロナが終息し「三密」ができる日が早く来ることを祈りましょう(谷口)

いつの日か相まみえんとヤマザクラ

植えたる山の地面ふみしむ 大谷路山(平成16年)

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第74号

発行責任者：荒武 八起

編集委員：久峯 慧子(責任者)、拵 恵子、谷口 敏子、
多田 登美子

事務局：日高研二

〒880-0933 宮崎市花山手東2丁目17-11

Tel, Fax 0985-52-6685, 080-1766-1207

E-mail: k-hidaka@har.bbiq.jp

口座：ゆうちょ銀行 記号17330-2 番号09336371

名義人：(社)日本山岳会宮崎支部